

## 第3回再生可能エネルギー戦略会議の結果概要について

1 開催日時 平成23年9月2日(金) 14:00～15:45

2 場 所 御所西 京都平安ホテル 2階 朱雀の間

3 出席者

<委員等> 手塚座長、池上委員、木原委員、佐本委員、戸成委員、豊田委員、長畑委員、堀井委員、本庄委員、埴岡オブザーバー(代理：藤川氏)、山根オブザーバー

4 内 容

▶議事 地球温暖化対策プラン(再生可能エネルギー戦略)について

<主な意見>

(全般)

- ・優先的に行うべきことに資金を傾斜的に投入すべき。  
産業界としてはメガソーラーに集中投資願いたいと考えている。
- ・ビジョンを持つべき。また、他部局との政策統合が必要。目的設定を行い、それが受け入れられるかの検討が必要。
- ・一歩先を目指すか足元の充実を図るかは難しいところ。一方で、自然や歴史と行った京都らしさと調和した新しい利用のあり方を示す必要もある。
- ・コストの計算をきっちりとしておくことが大切。どれだけの人がどれだけ負担しなければいけないのか。

(太陽光・太陽熱)

- ・太陽光発電設備の設置が税制対策になれば、中小企業でも設置は進む。
- ・太陽光パネルは増産が進んでいる。欧州の政策転換もあり、今一番売れる国内に、少し安くしてでも売りたい状況。売価の内訳は、メーカー半分、販売半分。
- ・太陽光発電は普及促進制度が進んでおり、新築では設置意欲が高いがそれでも今の程度である。2-3人で住んでいる住居が多く電気の使用量が少ないため、一歩踏み出せない。もう一押しできれば底辺が広がる。
- ・太陽熱利用設備については、自然循環式は元が取れるが、強制循環式は分からない。事例を調べてみてはどうか。

(バイオマス)

- ・バイオマス政策の対象を木質に限定したのはなぜか。基盤は廃棄物利用ではないのか。消化ガスの利用はどうか。
- ・BDFの普及が触れられていない。  
需要はあるが、廃食油が集まらない状況。情報収集を一緒にしていきたい。

(燃料電池等)

- ・燃料電池やバイオマスは一歩先のこと。一方、太陽熱は足元の充実のこと。混在しているがそういう形でよいか。
- ・燃料電池等の普及推進より、まずは太陽光、太陽熱設備をおくところから始めてはどうか。

- ・燃料電池などは売電しないと元が取れない。消費行動を考えての施策が必要。
- ・東日本大震災を受け蓄電池の需要は大きいですが、まだコストが高い。

#### (融資制度)

- ・融資制度が挙げられているが、中小企業はお金を借りることをためらっている。
- ・低利融資制度はありがたいが、利用が進むには、利率がかなり低い必要がある。
- ・太陽光などはリスクの低い再エネであり、低利融資に繋がるのではないか。

#### (普及促進統合窓口)

- ・太陽光発電等の普及促進情報統合窓口設置でいかにして大幅コスト削減が実現されるのか。どれだけコスト削減に繋がるかを示さないとロコミだけではモチベーションに繋がらない。
- ・業者間のたたき合いになるのが心配。  
古くからの京都の事業者は仕事が取れていない。地元のがんばりを支援していくのはよいと思うので検討が必要。
- ・情報統合窓口は、情報サーバーとしてだけでなく、活性化のエンジンとしてのプランを練る必要がある。

#### (風力)

- ・風力は太陽光に比べ発電コストも低い。稼働効率もよい。日本海もあり、洋上設置も可能。
- ・関西電力管内の風力発電でうまくいっているところは少ない。建設適地には需要が無く、電線も無いところが多い。

#### (財源)

- ・財源については、府の予算だけでなくいろいろな手段を含めるべき。
- ・府民出資型事業には、ミニ公募債の他にも手法はあると思われるので検討会をつくってはどうか。